

札幌地区 教育経営研究会

(兼 札幌市小学校長会 10月研究大会)

- 1 目的 北海道小学校長会・北海道中学校長会、及び地区校長会が抱えている教育経営上の具体的な課題を基にした共同研究主題及び各専門部の研究副主題に関する研究実践の成果を発表し、会員の職能向上を図り日常の学校経営に反映させるとともに、校長の役割と指導性を究明し、札幌市の学校教育の活性化に資する。
- 2 主催 北海道小学校長会
- 3 主管 札幌市小学校長会
- 4 日時 令和6年10月16日(水)
- 5 会場 札幌市生涯学習センター 講堂
- 6 参加者 札幌市小学校長会(191名)
- 7 日程

13時30分～13時55分	受	付	
14時00分～14時20分	開	会	式
14時25分～14時55分	発	表	1 学びの支援部
15時00分～15時30分	発	表	2 教育環境部
15時30分～15時40分	休	憩	
15時40分～16時10分	発	表	3 人材育成部
16時15分～16時45分	閉	会	式

8 開会式

- 札幌市小学校長会会長挨拶 札幌市小学校長会 会長 千葉 一博
- 北海道小学校長会会長挨拶・情勢報告
北海道小学校長会 会長 末原 恵蔵
- 来賓祝辞 札幌市教育委員会 教育長 山根 直樹 様
- 札幌市小学校長会共同研究推進委員会委員長挨拶 委員長 嶋本 剛

9 研究提言

「学びの支援部」「教育環境部」「人材育成部」より各30分ずつの研究提言を行う。協議は行わず、ご講評をいただくとともにアンケートによって意見・感想を集約する。

(1) 学びの支援部提言「一人一人の教育的ニーズに応える学校経営の在り方」

- 通常の学級の中で配慮を要する児童への指導の充実
 - ア 持続可能な児童支援のための校内組織の工夫。
 - イ 一人一人を大切にするための児童理解の充実。
- 特別支援学級・通級指導教室の指導の充実
 - ア 校長が積極的に特別支援学級に足を運び、児童の実態を自ら把握し、保護者に寄り添う。
 - イ 通級指導教室と本校の所属学級のつながりを大切にし、子どもの成長に目を向けていく。
 - ウ 特別支援学級・通級指導教室に通っている子どもたちの「よさ」を校内に発信し捉え方を変えていく。
- 不登校への対応

ア 学校・家庭だけでなく、専門家・地域との連携により、「切れ目ない支援を行う」ための協同体制を確立する。

イ 心理的安全性を保障した学校・学級・授業づくりによる不登校対策

(2) 教育環境部提言『未来を創る「さっぽろっ子」の育成に向けた教育環境を充実させる学校経営の在り方』

○教育活動の充実を図る施設・設備の活用

ア 冬場の安全確保、とりわけ避難経路の確保。

イ リニューアル改修に向けての学校行事や授業への影響、内壁や外壁の塗装に伴う、卒業作品や外壁にある学校のシンボルアートの処遇。

ウ 校舎改築に伴う施設づくりと新校舎での教育活動。

○ICTを用いた教育活動の充実

ア 情報化推進委員会・デジタル部・GIGA部等の校内組織を設置し、実態の把握と活用の推進。

イ 話題として活性化し、職員の意識の醸成を図る。

ウ 環境整備と共に、地域保護者に対する取組への説明や丁寧な働き掛け。

エ ICT(端末)の持続的な活用へ向けた体制づくり。

○CS導入に向けた校長の役割と指導性

ア 義務教育学校設立準備委員会とCSの同時並行での組織体制づくり。

イ 地域学校協働活動推進事業の活用や、学校運営協議会と既存組織の関係整理。

ウ 目指す子ども像を明確にした取組、運営。

○保護者や地域、関係機関との安全連携

ア 「PTAボランティア」の力を借りた対応。

イ PTAの「家庭数一人一役」による交通安全指導、「愛の鐘パトロール係」の新設による公園の見守り、スクールゾーン実行委員会での危険個所の共有、交番や警察署への朝の見守り協力依頼。

ウ 町内会の見守りの方の周知。

(3) 人材育成部提言「人材の育成と働き方改革を実現する学校経営の在り方」

○自ら学び続ける教員の育成

ア 新たな気付き、新たな動き、安心感、モチベーションの向上につながる校長面談。

イ 研究授業や日々の授業観察での評価。

ウ 評価につながる場の設定。

○情熱・人間力を育成する校長の関わり

ア 「人と人としてつながる」関係性の構築を図る。

イ 責任ある役割を担うことでの自信の回復。

ウ 「日常的・継続的な学びを促す人材配置」、「他者への適切な関わり方を『技術』として学び、身に付ける研修の充実」

10 閉会式

○講評 札幌市教育委員会 学校教育部長 佐藤 圭一 様

○閉会挨拶 札幌市小学校長会共同研究推進委員会 副委員長 石川 篤司